

新学部長に聞く

2学部長は再任

任期満了に伴う経済学部長、経営学部長、文学部長の改選が各学部教授会で行われ、経済学部長に酒井進教授が新たに選任され、魚田勝臣経営学部長と荒木敏夫文学部長は再任された。任期は06年8月31日までの2年間。また法学部長の学長就任、ネットワーク情報学部長の依願退職に伴い、各学部教授会で選挙が行われ、法学部長に木幡文徳教授、ネットワーク情報学部長に坂本實教授が選任された。任期は前任者の残存期間で05年8月31日までの1年間。新任3教授に抱負を聞いた。

酒井 進 経済学部長

木幡 文徳 法学部長

坂本 實 ネットワーク情報学部長

【ニュース専修2004年9月号2面】

新学部長に聞く

酒井 進 経済学部長



経済学科は新カリキュラムに移行して3年目、新カリに盛り込まれた理念がどの程度実現出来ているか、また制度設計の段階で見落としていた問題があるかどうかを慎重に検討し、学部教育の一層の充実に努めていく必要があります。同時に少人数教育の徹底にも改めて取り組まねばなりません。学生の顔を見ながら、丁寧な教育をする。この点では国際経済学科が一步先んじていますが、同学科でもカリキュラムの見直しが進んでおり、来年度から始まる海外特別研修によって「地域研修」のプログラムがより充実します。

1年次生を対象として新設された「入門ゼミナール」は、クラス担任が同時に入門ゼミを担当するので、学生と教員の距離感を縮めるのに役立っています。他方2年次以上を対象とするコース制により、コース科目については、少人数教育がある程度まで可能となりました。学生が目的意識的に、系統的な学習を行うことを期待しています。

経済学は、私たちの生活の場である経済社会を対象としていますから、学生には新聞を毎日読んでほしい。新聞・雑誌等の経済記事を的確に理解し、またそれを通じて「時代を読む」ことが出来れば、どこに出ても立派な社会人です。近年、経済学教育のあり方についていろいろと議論がありますが、新聞を通じて「時代を読む」ことを学部教育の目標に据えてもいいのではないかと。新聞が読めるように、基本的なところをじっくり教えることが必要です。現代の経済社会を歴史的・構造的・複眼的に捉えるという伝統のもと、各分野の優れたスタッフを多数擁する我が学部の強みを生かして、課題を一つずつ着実にクリアしていきたいですね。

略歴:さかいすすむ・77年(昭52)東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。同年本学助手。講師、助教授を経て、91年(平3)教授。専攻は経済学史。入学試験委員会委員、教員資格審査委員会委員などを歴任。東京都出身。趣味は山登り。57歳。

【ニュース専修2004年9月号2面】

新学部長に聞く

木幡 文徳 法学部長



4月にスタートした法科大学院設置により、学部教育の役割も従来とは異なってきています。「法曹」教育の中心は法科大学院へ移りましたが、学部では「既修者コース」教育に耐える実力を身につけさせなければならない。法科大学院との関わりは双方が協調しながらしばらくは模索していく期間となるでしょう。一方、準法曹ともいべきパラ・リーガル(司法書士や行政書士など)、公務員、一般企業の、さまざまな分野に進む大多数の学部生が「法知識を備えた社会人」として活躍するにはどのような教育が必要であるか、カリキュラムの再構築も必要です。変革期にある法学部ですが、一貫して変わらないものがあります。私は64年

(昭39)入学ですが「どういう将来を目指すのか」を考えた上で学ぶ実学志向という姿勢は、創立者から脈々と続いているものです。

10年前に3コース制から4コース制に移行した法学部は時代の要請に応え、新学科「政治学科」を06年(平18)に設置すべく、動き出します。二つの学科が刺激し合いながら、より優秀な学生を輩出していくことが出来るようになるでしょう。

公務員に強い「専大法学部」という評価を大切にしながら、学生諸君はさまざまな分野で力を発揮出来るよう、充実したキャンパスライフを過ごしてほしい。授業だけでなく、日ごろの活動の中から「自信」をつけてあげるのが我々教員の使命だと思っています。

略歴:こはた・ぶんとく 71年(昭46)専修大学大学院法学研究科修士課程修了。助手、講師、助教授を経て88年(昭63)教授。専攻は民法(家族法)。今村法律研究室長、自己点検・評価運営委員会委員長などを歴任。99年(平11)から東京家裁の調停委員を務めている。福島県出身。趣味はテニスと映画鑑賞。58歳。

【ニュース専修2004年9月号2面】

新学部長に聞く

坂本 實 ネットワーク情報学部長



ネットワーク情報学部は来春、第1期生を社会に送り出します。情報技術の基礎理論を身につけ、ネットワークにおけるシステム開発、コンテンツプロデュース、情報分析などの応用技術を学ぶ文理融合型の新学部として誕生4年。本年度の就職状況もまずまずで、AO入試の成果も出ており個性豊かな学生が育っているのが心強い限りです。この間の実績を省みて、さらに魅力ある学部へカリキュラムの変更などを検討する時期が来たのではと考えています。

大学で学ぶものは何か。言うまでもなく、知識、情報、技能を自ら獲得し、自分のものにして、それらを活用する術を身につけることです。学び方を学ぶとでも言いましょうか。さらに他の者と協力して、共通の課題を解決するための能力を養うことも大きな目的。学部で経験して、そこから個人の力を育み、進むべき道を探して欲しいのです。

出席が厳しくチェックされ、たくさんの課題が課される本学部ですが、この厳しい環境の中に置かれることによって成長していくと期待されます。やる気のある学生に十分な機会が与えられます。カリキュラムの特徴ある科目「プロジェクト」では、グループ作業で学生たちが話し合い、一つのテーマを選定し、その完成を目指して、通年で取り組むものです。ここには、大学で学ぶべき多くの要素が含まれています。

本学の21世紀ビジョン「社会知性」の開発の実現のために一層の充実、発展へ、今後心掛けていきます。

略歴:さかもと・みのる 69年(昭44)早稲田大学理工学研究科博士課程単位取得。専門は「オペレーションズ・リサーチ」(数理モデル、最適化)。

74年(昭49)本学助教授。75年(昭50)教授。01年(平13)所属変更によりネットワーク情報学部教授。経営学部長、情報科学センター長、情報科学研究所長などを歴任。高知県出身。趣味はテニス。68歳。

【ニュース専修2004年9月号2面】